

平成 25 年度 業務実績報告書（案）

参考資料集

平成 26 年 6 月

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

年度計画 No.	資料名	頁数
3	課題を学ぶ関連科目群 履修要項	1
15	英語自主学習センター(SALC)の試行について	4
20	経済学部専門教育科目の履修モデル	6
24	名古屋市立大学看護実践教育モデル	9
25	大学院アドミSSION・ポリシー	11
31	国際交流センター 広報誌 (Global Network)	16
31	平成 25 年度 国際学会参加実績	18
44	理学系学部のニーズに関するアンケート調査結果	19
47	教養教育における研究授業実施状況	30
48	教育支援センターNEWS	31
53	課外活動団体による社会貢献活動	33
61	ESD 特集号、ESD と大学 2、ESD リレーシンポジウム	34
63	芸術工学研究科における「居眠り運転を防ぐ自動車用シートの開発」	42
65	生物多様性研究センター2013 年度報告書	44
68	科研費セミナー案内	49
72	社会連携センター（ソーシャルキャピタルセンター） 概要	50
75	平成 25 年度市民公開講座等一覧	51
75	「第 16 回国際福祉健康産業展～ウェルフェア 2013～」 開催結果	54
76	公立大学法人名古屋市立大学と名古屋市教育委員会との 高大連携協力に関する協定書 (案)	56
78	国際交流センターの設置について	57
79	国際交流協定校一覧	59
84	周産期母子医療センターについて	60
88	病院情報システム運用概念図	63
100	病院機能評価について	64
103	組織図	66
115	名古屋市立大学交流会 設立総会・記念講演会・懇親会	70
137	女性教員採用に対するインセンティブ経費付与について	72
139	教員の所属別・補職別・性別比率について	74

(3) 課題を学ぶ関連科目群

名古屋市立大学の教養教育では、大学が教育目標に掲げる重点領域や教養教育の教育目標にそって、「課題を学ぶ関連科目群」を設定して、履修計画作成のための参照資料として提示しています。これを参考に一人一人が自ら学習目標を設定し、それにしたがって授業科目を履修してください。

課題を学ぶ関連科目群は、課題別の関連科目の紹介ですから、各課題の科目を組合せたり、これとは別に一人一人が自らの学習目標を設定することが可能であり、また必要なこととです。これを参考にして自身の学習計画を自分なりに設定してください。

課題を学ぶ関連科目群は、必修科目と選択科目から構成され、一部にリメディアル科目が配置されています。

ア 持続可能な共生社会の実現について学ぶ (選択科目＋必修科目)

① 持続可能な共生社会の基礎

区分	該当の科目	開講期	単位数
大学 特色科目	特色科目 4 (持続可能な社会をつくる社会事業)	後	2
	特色科目 5 (ワーク・ライフ・バランス)	後	2
	特色科目 7 (省資源・省エネルギー型の社会を考える)	前	2
	特色科目 13 (ジェンダー入門)	前	2
	特色科目 14 (ジェンダー入門)	後	2
	特色科目 15 (共生社会におけるふれあいネットワーク)	前	2
	特色科目 16 (平和論)	前	2
	特色科目 17 (正義論)	後	2
	学外実習 1 (暮らしを楽しむ山村合宿)	前	2
	学外実習 4 (持続可能な社会－日本の都市近郊田園から考える－)	前	2
現代 社会 の 諸 相	日本国憲法	前後	2
	法学 4 (知的財産権入門)	後	2
	現代社会 1 (名古屋市政から学ぶ地方自治の精神)	前	2
	経済学 1 (経済学の考え方)	後	2
	社会学 1 (社会学概論)	前	2
	政治学 1 (現代日本の政治)	前	2
	社会学 3 (近代社会のなりたち)	前	2
	国際関係論 3 (国際政治と文化)	非開講	2
	文化の理解 2 (東海の歴史と文化)	後	2
	人類学 2 (マージナル諸島の歴史と現在)	後	2
※ a	人間と自然 12 (E S D と環境)	後	2
※ b	自然と数理 1 (意思決定の数理)	前	2
※ c	ポランディア科目	随時	1
※ d			

※ a 文化と人間性の探求、 b 人間と自然、 c 自然と数理の探求、 d ボランティア科目

② 健康と福祉の向上

区分	該当の科目	開講期	単位数
大学 特色科目	特色科目 1 (教養として知っておきたい様々な病気の実態)	前後	2
	特色科目 2 (創薬と生命)	前	2
	特色科目 3 (環境と薬学)	前	2
	特色科目 15 (共生社会におけるふれあいネットワーク)	前	2
	特色科目 20 (A I D S と向きあう社会)	前	2
※ e	法学 5 (法とその精神)	前	2
※ f	宗教学 (宗教学入門)	後	2
人間と 自然	倫理学 1 (応用倫理学－生命倫理の現在)	前	2
	人間と自然 6 (社会と医学)	前	2
	人間と自然 7 (くすりと社会)	後	2
	人間と自然 8 (都市の緑と自然)	前	2
	健康・スポーツ科学論 (含演習)	前後	1
※ g	健康・スポーツ実技	前後	1
※ h	ポランディア科目	随時	1
※ i	医薬看護連携早期体験学習	通年	2

※ e 現代社会の諸相、 f 文化と人間性の探求、 g 健康・スポーツ科目、 h ポランディア科目、

i 早期体験学習

③ 次世代育成の支援

区分	該当の科目	開講期	単位数
大学 特色科目	特色科目 5 (ワーク・ライフ・バランス)	後	2
	特色科目 6 (次世代育成の課題)	前	2
	特色科目 12 (動物とヒトの進化多様性)	前	2
	特色科目 13 (男女共同参画社会をめざして)	前	2
	特色科目 14 (ジェンダー入門)	後	2
	特色科目 18 (キャリアデザイン)	後	2
	特色科目 19 (地域企業の国際化)	前	2
	特色科目 20 (A I D S と向きあう社会)	前	2
	学外実習 1 (暮らしを楽しむ山村合宿)	前	2
	社会学 2 (地域社会学)	後	2
現代 社会 の 諸 相	経営学 1 (企業と社会、個人の関係)	前	2
	政治学 4 (私たちにとって政治とは何か)	非開講	2
	心理学 1	後	2
	心理学 2 (こころ・身体・環境のダイナミックス)	後	2
	倫理学 4 (実存と倫理)	後	2
※ j	ポランディア科目	随時	1
※ k	家族社会学	後	2

※ j ポランディア科目、 k 看護基礎

④ 地球環境の保全と社会環境の整備発展

区分	該当の科目	開講期	単位数
大学 特色 科目	特色科目 3 (環境と菓学)	前	2
	特色科目 4 (持続可能な社会をつくる社会事業)	後	2
	特色科目 7 (省資源・省エネルギー型の社会を考える)	前	2
	特色科目 9 (社会環境論)	後	2
	特色科目 10 (メディア環境論)	前	2
	特色科目 11 (植物の多様性と環境)	前	2
	法学 2、3 (現代社会と法律)	前	2
	現代社会 2 (情報社会とメディア)	後	2
	社会学 1 (社会学概論)	前	2
※ 1	国際関係論 1 (グローバル政治経済論)	前	2
	地理学 1 (都市と郊外の地理学)	前	2
	倫理学 2 (応用倫理学入門ー環境保全の倫理学)	後	2
	人間と自然 2 (環境と制度・社会・政治・経済)	前	2
	人間と自然 3、4 (環境科学 I、II)	前後	2
	人間と自然 5 (環境と法律)	前	2
	人間と自然 II (動物行動生態学)	後	2
	自然と数理解 4 (植物とバイオテクノロジー)	前	2
	自然と数理解 6 (エネルギーのサイエンス)	後	2
探 求 理 の	自然と数理解 9 (地球史入門)	後	2
	自然と数理解 10 (地域生態学)	後	2

※ 1 文化と人間性の探求

イ 人間・社会・自然に関する知の蓄積を学ぶ (選択科目)

区分	該当の科目	開講期	単位数
文化と人間性の探求	文化の理解 3、4 (日本の文化史と古典作品)	前後	2
	文化の理解 5 (東ヨーロッパの文化と歴史)	非開講	2
	文化の理解 6 (日本宗教史入門)	前	2
	歴史の認識 1、2 (日本史入門)	前後	2
	歴史の認識 3、4 (ヨーロッパ史入門)	前後	2
	歴史の認識 5、6 (東アジア史入門)	前後	2
	歴史の認識 7 (アメリカ史入門)	前	2
	地理学 2 (人文地理学)	後	2
	人間性の探求 1 (音楽と文化)	前	2
	人間性の探求 2 (美術の歴史と鑑賞)	前	2
	哲学 1、2 (哲学入門)	前後	2
	倫理学 3 (基礎からわかる倫理学)	前	2

現代 社会 諸 相 自 然 と 人 間 の 探 求 理 の	法学 1 (法と国家、法と生活)	後	2
	経済学 2 (経済のしくみ)	前	2
	経営学 2 (会計・ファイナンスと情報処理)	後	2
	政治学 2 (戦後の日本と世界の政治経済的考察ー政治とは何か)	後	2
	政治学 3 (「国民国家」とは何か)	前	2
	国際関係論 2 (現代アメリカ外交の基礎知識)	前	2
	人間と自然 1 (科学史)	後	2
	人間と自然 10 (科学と統計のリテラシー)	後	2
	自然と数理解 2 (統計学入門)	後	2
	自然と数理解 3 (宇宙のなりたち)	前	2
	自然と数理解 5 (化学反応のしくみ)	前	2
	自然と数理解 7 (バイオサイエンス入門)	後	2
	自然と数理解 8 (情報と数理解の世界)	後	2

ウ コミュニケーション能力を向上させる (選択科目+必修科目)

区分	該当の科目	開講期	単位数
英 語	コミュニケーション英語 1、2、3、4	前後	1
	総合英語 1、2、3、4	前後	1
	応用英語 1、2	前後	1
	ドイツ語	前後	1
未 修 外 国 語	フランス語	前後	1
	中国語	前後	1
	日本語 (留学生用)	前後	1
	文化の理解 1 (日本語のしくみと文章表現)	後	2
※m	文化の理解 7 (日本語コミュニケーション)	後	2
	学外実習 2 (中国短期語学研修)	後	2
	学外実習 3 (フランス短期語学研修)	後	2
	特色科目 8 (デザインと情報)	前	2
※m	心理学 3 (人間関係の心理)	前	2
	人類学 1 (異文化理解入門)	前	2
	人間性の探求 3 (人間とデザイン)	前	2
	情報処理	後	2
情 報 理 科 目	情報処理基礎 (または情報・統計処理)	前後	2
	情報処理応用	前後	2
	情報検定基礎	前	2
	ボランティア科目	随時	1

※ m 文化と人間性の探求、n ボランティア科目

エ 理数系の基礎学力を向上させる（選択科目＋必修科目＋リメディアル教育科目）

区分	該当の科目	開講期	単位数
※ o	基礎物理学（物理学基礎）	前後	2
化学	有機化学	後	2
	化学概論	前	2
	生体分子化学	後	2
※ p	基礎生物学（生物学基礎）	前後	2
※ q	自然科学実験	後	1
数学・統計学	微分積分学	前後	2
	線形代数学	後	2
	数学 A、B	前後	2
	統計学（統計学 A）	前後	2
	数学基礎（および数学基礎演習）	前	2、1
	応用数学（および応用数学演習）	後	2、1
※ r	生命薬科学研究入門	通年	2
※ s	基礎科学	前	2

※ o 物理学、p 生物学、q 自然科学実験、r 早期体験学習、s 看護基礎

学部	リメディアル教育科目	開講期	単位数
薬学部	物理Ⅱ	前	－
	生物Ⅰ	前	－
経済学部	数学Ⅱ、A、B	前	－
芸術工学部	数学Ⅲ、C	前	－

「リメディアル教育」とは、学生の基礎学力の修得を補完するために実施する課外の補習教育です。薬学部、経済学部、芸術工学部の対象学生に、高等学校での未履修科目、入学試験での非選択科目、入学試験区分における試験科目の違い等の学力平準化に向けて考慮すべき事情がある高等学校課程の科目について、特別講師による授業が行われます。

【年度計画15】

英語自主学习センター（SALC）の試行について

◇趣 旨

学生が「使える外国語」を身につける手助けをする場所として、英語自主学习センター（Self-Access Learning Centre）を設置するもの。

◇目 的

- ・社会に出た時に「使える外国語が身についている」こと。
「使える外国語」とは、たとえば外国語でプレゼンができる、外国人訪問者に対して会話ができる、留学時に必要な外国語を身につける、名古屋市立大学生として名古屋の魅力を海外に発信することができる、また将来的に海外勤務が可能となる、などを指す。
- ・学年が進み、外国語の授業から遠ざかることによって語学力が落ちていく学生に対し、外国語に触れる場所を提供すること。
学生は、SALCに設置予定のパソコンやiPadでインターネットやビデオを通して、また書籍等を通して自主学习を行う。

◇検討経過

大学教育推進機構のもとにある英語力向上検討WGにおいて本学の英語教育の在り方について検討する中で、語学担当教員及び外国人教師の強い要望により試行を検討した。

◇実施組織

大学教育推進機構

◇実施期間

平成26年4月1日～平成26年9月30日

◇予 算

特別研究予算及び教養教育の特別予算

◇運 営

- (1) 責任者
外国人教師 ルイーズ ヘインズ、ベネシア ウイリアムズ
- (2) 管理・予算執行
山の畑事務室
- (3) 設置場所
山の畑キャンパス2号館309教室
- (4) その他
SA（学生アシスタント）が運営を補助する。
※SAについては、当面は無償ボランティアとする。

◇その他

試行期間終了後は、大学教育推進機構において検証を行い、以降の方針を決定することとする。

英語自主学习センター（SALC）試行にあたっての
学習室の管理運営要綱（案）

（趣旨）

第1条 この要綱は、英語自主学习センターの学習室（以下「SALCルーム」という）の管理と運営について定めるものとする。

（管理運営体制）

第2条 外国人教師ルイズ・ヘインズ、ベネシア・ウィリアムズの2名は管理運営責任者としてSALCルームの管理及び運営にあたる。

（2）管理運営責任者は、SALCルームの運営に協力を申し出た学生に学生スタッフとしてSALCルームの運営補助にあたらせることができる。

（設置場所）

第3条 SALCルームは、滝子キャンパス2号館309セミナー室に設置する

（利用時間）

第4条 SALCルームは、責任者か学生スタッフが在室時のみ開室するものとし、不在の場合は施錠する。利用可能時間帯を掲示板に張り出す等開室時間の周知を行うものとする。

（鍵の管理）

第5条 鍵は、2号館1階教員控室にて保管するものとし、管理運営責任者又は学生スタッフがSALCルームの鍵を借り受ける際は、鍵貸出簿に氏名、貸出時刻を記入し、鍵返却時は返却時刻を記入するものとする。

（備品管理）

第6条 管理運営責任者は、iPad等の備品類は、家具に鎖で結びつける等盗難防止策を施すものとする。

（施行期間）

第7条 試行期間は平成26年4月1日から平成26年9月30日までとする。

（施設関係の事務）

第8条 試行期間中の事務は、山の畑事務室が担当する。

この要綱は平成26年4月1日より施行する。

経済学部専門教育科目の履修モデル

注：各科目の単位数は2、(4)は4単位科目を示す。

1. 公共政策学科

【1年次】

学部共通科目 (○は必修科目)

◎入門経済学Ⅰ ◎入門経済学Ⅱ ◎基礎演習Ⅰ：1年次必修科目
日本経済論Ⅰ 日本経済論Ⅱ 入門簿記 入門経営学Ⅰ 入門経営学Ⅱ
経済経営数学 入門ファイナンス

【2年次】◎基礎演習Ⅱ [2年次必修科目]

学科基礎科目 (○は選択必修科目)

○マクロ経済学(4) ○ミクロ経済学(4)
公共経済学Ⅰ 公共経済学Ⅱ 国際経済学Ⅰ 国際経済学Ⅱ 金融論Ⅰ 金融論Ⅱ
財政学Ⅰ 財政学Ⅱ

(法律・歴史・会計・情報分野の科目)

憲法(4) 行政法(4) 経済史Ⅰ 経済史Ⅱ 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ
情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ データ分析基礎 統計分析基礎
キャリアデザイン 特別講義Ⅰ～Ⅴ 特別セミナーⅠ～Ⅳ

【3～4年次】◎演習Ⅰ(4) [3年次必修科目] ◎演習Ⅱ(4) [4年次必修科目]

学科応用展開科目

履修の参考例①：財政政策を学ぶ

地方財政論 租税論 国際公共政策論 都市経済学Ⅰ 都市経済学Ⅱ 地域経済学Ⅰ
地域経済学Ⅱ 環境経済学Ⅱ 環境経済学Ⅰ 公共政策Ⅰ 公共政策Ⅱ
応用公共経済学 非営利経済論 応用マクロ経済学 応用ミクロ経済学

履修の参考例②：金融政策を学ぶ

国際金融論Ⅰ 国際金融論Ⅱ 金融市場論Ⅰ 金融市場論Ⅱ 証券投資論Ⅰ
証券投資論Ⅱ 金融政策論Ⅰ 金融政策論Ⅱ 応用マクロ経済学 応用ミクロ経済学
実験経済学Ⅰ 実験経済学Ⅱ 日本経済・経営

履修の参考例③：産業政策を学ぶ

産業組織論Ⅰ 産業組織論Ⅱ 労使関係論 労働経済論 経済開発論

応用ミクロ経済学 応用公共経済学 地域経済学Ⅰ 地域経済学Ⅱ 日本経済・経営
食糧・資源政策論 環境経済学Ⅰ 環境経済学Ⅱ 公共政策Ⅰ 公共政策Ⅱ

履修の参考例④：社会政策を学ぶ
社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ 医療経済学Ⅰ 医療経済学Ⅱ 労使関係論 労働経済論
応用公共経済学 国際公共政策論 都市経済学Ⅰ 都市経済学Ⅱ 地域経済学Ⅰ
地域経済学Ⅱ 環境経済学Ⅰ 環境経済学Ⅱ 公共政策Ⅰ 公共政策Ⅱ
比較経済システム論 日本経済・経営

履修の参考例⑤：国際経済政策を学ぶ

国際経済関係論Ⅰ 国際経済関係論Ⅱ 国際金融論Ⅰ 国際金融論Ⅱ 都市経済学Ⅰ
都市経済学Ⅱ 地域経済学Ⅰ 地域経済学Ⅱ 経済開発論 国際公共政策論
比較経済システム論 アジア経済論 欧米経済論Ⅰ 欧米経済論Ⅱ

(法律・歴史・経営・会計・情報分野の科目)

特別講義Ⅰ～Ⅴ 特別セミナーⅠ～Ⅳ 現代経済・経営特論Ⅱ 保険論
経済法(4) 会社法(4) 労働法(4) 行政学 地方自治法(4) 民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4)
日本経済史 外国経済史 経済学史
経営情報学 オペレーションズ・リサーチ 計量経済学 知的財産法

2. マネジメントシステム学科

【1年次】

学部共通科目 (◎は必修科目)

◎入門経済学Ⅰ ◎入門経済学Ⅱ ◎基礎演習Ⅰ：1年次必修科目
日本経済論Ⅰ 日本経済論Ⅱ 入門簿記 入門経営学Ⅰ 入門経営学Ⅱ
経済経営数学 入門ファイナンス

【2年次】◎基礎演習Ⅱ [2年次必修科目]

学科基礎科目

経営組織 経営戦略 組織行動 企業論 イノベーション・マネジメント
マーケティング 人的資源管理 制度経済学Ⅰ 制度経済学Ⅱ 経済史Ⅰ 経済史Ⅱ
世界経済論Ⅰ 世界経済論Ⅱ 会社法(4) 知的財産法

(法律・会計・情報・経済学分野の科目)

リーダーシップとネゴシエーションⅠ 地域企業活性化論 マクロ経済学(4)
ミクロ経済学(4) 国際経済学Ⅰ 国際経済学Ⅱ キャリアデザイン
情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ データ分析基礎
特別講義Ⅰ～Ⅴ 特別セミナーⅠ～Ⅳ

【3～4年次】◎演習Ⅰ(4) [3年次必修科目] ◎演習Ⅱ(4) [4年次必修科目]

学科応用展開科目

履修の参考例①：組織を学ぶ

事例研究特論 リーダーシップとネゴシエーションⅡ 国際経営論 組織の経済学
変革マネジメント 決定と知識のマネジメント 制度と文化のマネジメント
労使関係論 労働経済論 経済経営英語 日本経済・経営

履修の参考例②：戦略を学ぶ

事例研究特論 変革マネジメント リーダーシップとネゴシエーションⅡ 商品開発
消費者行動論 生産管理 国際経営論 経営史Ⅰ 経営史Ⅱ 経済経営英語
日本経済・経営

履修の参考例③：制度・歴史を学ぶ

経営史Ⅰ 経営史Ⅱ 日本経済史 外国経済史 経済学史 比較経済システム論
外国経済史 経済学史 比較経済システム論 アジア経済論 欧米経済論Ⅰ
欧米経済論Ⅱ 国際経済関係論Ⅰ 国際経済関係論Ⅱ 労使関係論 労働経済論

(法律・会計・情報・経済学分野の科目)

特別講義Ⅰ～Ⅴ 特別セミナーⅠ～Ⅳ 現代経済・経営特論Ⅱ
経済法(4) 労働法(4) 経営情報学 オペレーションズ・リサーチ 統計分析基礎
財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 管理会計Ⅰ 管理会計Ⅱ 日本経済・経営
公共経済学Ⅰ 公共経済学Ⅱ 金融論Ⅰ 金融論Ⅱ 財政学Ⅰ 財政学Ⅱ
産業組織論Ⅰ 産業組織論Ⅱ 経済開発論 国際金融論Ⅰ 国際金融論Ⅱ

3. 会計ファイナンス学科

【1年次】

学部共通科目 (◎は必修科目)

- ◎入門経済学Ⅰ ◎入門経済学Ⅱ ◎基礎演習Ⅰ
- 日本経済論Ⅰ 日本経済論Ⅱ 入門経営学Ⅰ 入門経営学Ⅱ 入門簿記
- 経済経営数学 入門ファイナンス

【2年次】◎基礎演習Ⅱ [2年次必修科目]

学科基礎科目

- 会計学Ⅰ 会計学Ⅱ 原価計算 企業ファイナンス 先物・オプション入門
- データ分析基礎 統計分析基礎 情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ

(法律・経営・情報・経済学分野の科目)

- 簿記実務 ファイナンス実務 民法Ⅰ 民法Ⅱ 企業論 マクロ経済学(4)
- ミクロ経済学(4) 金融論Ⅰ 金融論Ⅱ 財政学Ⅰ 財政学Ⅱ



【3～4年次】◎演習Ⅰ(4) [3年次必修科目] ◎演習Ⅱ(4) [4年次必修科目]

学科応用展開科目

履修の参考例①：会計を学ぶ

- 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 管理会計Ⅰ 管理会計Ⅱ 財務分析 税務会計 国際会計
- 監査論 会計実務(4) 保険論 コーポレートガバナンス ファイナンス分析
- 租税法 財務情報処理 経営情報学

履修の参考例②：ファイナンス・情報を学ぶ

- 証券投資論Ⅰ コーポレートガバナンス ファイナンス分析 応用企業ファイナンス
- 金融システム論 金融市場論Ⅰ 金融市場論Ⅱ 証券投資論Ⅱ 財務分析 保険論
- オペレーションズ・リサーチ 計量経済学 財務情報処理 経営情報学

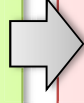
(法律・経営・情報・経済学分野の科目)

- 知的財産法 経済法(4) 労働法(4) 国際金融論Ⅰ 国際金融論Ⅱ 金融政策論Ⅰ
- 金融政策論Ⅱ 環境経済学Ⅰ 環境経済学Ⅱ 経営組織 経営戦略 マーケティング
- リーダーシップとネゴシエーションⅡ 国際経営論 組織の経済学 商品開発
- 組織行動 特別講義Ⅰ～Ⅴ 特別セミナーⅠ～Ⅳ 現代経済・経営特論Ⅱ

名古屋市立大学看護実践教育モデル

看護学部と病院看護部が協働し、理論と実践の融合を図り、エビデンスに基づいた質の高い臨床看護実践ができる人材、地域住民の健康支援に貢献できる人材を輩出する

目的



卒業時の臨床看護実践能力の質向上を図る

- ・ 講義
- ・ 演習指導
- ・ 臨地実習指導

目標

大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる

- ・ 新人・中堅看護師の現任教育
- ・ 教育担当者と臨地指導者への教育

臨床上の問題を科学的に探究する

- ・ 共同研究

地域住民の健康を促進する

- ・ 健康支援活動



期待される成果

- ① 演習や実習の構成を共同で考えることで臨床に即した授業が展開できる
- ② 学習内容や教授方法を理解することにより、効果的な学生指導が提供できる
- ③ 効果的な現任教育を行うことで、患者への質の高い看護実践が提供できる
- ④ 共同研究を行うことで科学的思考を看護実践に生かすことができる
- ⑤ 地域住民が健康の維持・増進に関心をもつことができる

目的:看護学部と病院看護部が協働し理論と実践の融合を図り、エビデンスに基づいた質の高い臨床看護実践ができる人材、地域住民の健康支援に貢献できる人材を輩出する

10

大学院アドミSSION・ポリシー

大学院全体	
新規	名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。 本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。
現行	博士課程 本課程では、特定領域の知識の深化を図るのみならず、幅広い領域の医学知識を習得し研究を実施することにより、独創的かつ広い視野から推進すべき医学研究の内容、方法を計画・実施し得る応用範囲の広い医学研究者を養成し、さらに、関連領域を中心とした幅広い医学知識・技術を基盤として、高度最先端の医療を実施・指導し得る医師の育成を目指す。 修士課程 本課程は、医学・生命科学に強い関心を持ち、最先端の医学・医療及び生命科学領域で活躍しようとする先駆的かつ独創的な研究者或いは高度専門技術者を育成することを目的とする。さらに、修士課程での研究のさらなる発展を目指すべく、博士課程へ進学する意欲を持つ医学研究者の育成を目指す。
改正	《求める学生像》 【修士課程】 一般選抜 ・最先端の医学・医療及び生命科学に強い関心をもつ人 ・先駆的かつ独創的な研究者或いは高度専門技術者を志す人 ・自然科学の基礎分野における十分な学力を有するとともに、自ら学習や研究に主体的・自律的に取り組む意欲を持つ人 推薦特別選抜 ・上記に加え、本学医学研究科博士課程への進学を強く志す人 【博士課程】 ・<u>将来の医学研究をリードする国際的医学研究者を志す人。</u> ・<u>高度最先端医療を創出し、実施する医療人を志す人。</u> 《修得しておくべき知識の内容・水準》 【修士課程】 一般選抜・推薦特別選抜 自然科学諸分野の大学教養レベルの知識を取得していることに加え、生命科学または関連す

	る分野における専門基礎知識を身につけていることが求められる。また、研究を実施する過程では英語論文を読むことが必須のため、英語読解力も必要である。
	【博士課程】 <u>英文論文読解と作成のための英語能力に加えて、医学・医科生命科学研究遂行に必要となる理系大学学部、あるいは大学院修士課程修了レベルの生命科学・基礎医学知識を有すること、または高度最先端医療の実践を目指しうる基礎的医療技術と知識・経歴を有すること。</u>

薬学研究科	
現行	薬学研究科（創薬生命科学専攻）では、薬学領域の幅広い知識とそれに基づく深い専門性を修得し、革新的研究を目指し生命科学、創薬科学、環境衛生薬学、医療薬学に携わる創造性豊かな卓越した能力を有する研究者・技術者の養成を目指しています。また、広い視野と高い倫理観を持ち教育、行政及び医療現場等で活躍できる卓越した能力を有する人材の養成も目指しています。これらの多岐に亘る高度に専門的な人材を育成するために、研究科は次のような人を求め、入学を歓迎します。 ・博士前期・後期課程を通じて、学修と研究に強い意欲を持ち、主体的な創造性と協調性に富んだ人を求めます。 ・博士前期課程では、研究課題への取り組み方のうち、主に問題解決能力を獲得することをめざして、特に研究遂行に必要な物質科学・生命科学の基礎学力と語学力を有する人を求めます。 ・博士後期課程では、最先端の研究成果を挙げて学術論文として発表する過程を通じて、問題解決能力に加えて課題設定能力を獲得することをめざして、関連する物質科学・生命科学の先端的な知識と研究遂行のための基礎的技術を有する人を求めます。 ・多様な人材の育成の観点から、異なる学問的背景（薬学以外の学部出身者）と研究遂行に必要な基礎学力を有し、新たに薬学研究を志す人を求めます。 ・国際的な人材の育成の観点から、研究遂行に必要な物質科学・生命科学の基礎学力を有し、薬学研究を志す留学生を求めます。 ・多様な人材の育成の観点から、研究遂行に必要な学力と経験を有し、博士後期課程での薬学研究を志す社会人を求めます。
改正	《理念・目的・教育目標》 【博士前期課程】 薬学研究科は、薬学領域の幅広い知識とそれに基づく深い専門性を修得し、革新的研究を目指し生命科学、創薬科学、環境衛生薬学、医療薬学に携わる創造性豊かな卓越した能力を有する研究者・技術者の養成を目指している。また、広い視野と高い倫理観を持ち教育、行政及び医療現場等で活躍できる卓越した能力を有する人材の養成も目指している。これらの多岐に亘る高度に専門的な人材を育成するために、当研究科は次のような人を求めている。 【博士後期課程】 薬学研究科は、薬学領域の幅広い知識とそれに基づく深い専門性を修得し、革新的研究を目指し生命科学、創薬科学、環境衛生薬学、医療薬学に携わる創造性豊かな卓越した能力を有する研究者・技術者の養成を目指している。また、広い視野と高い倫理観を持ち教育、行政及び医療現場等で活躍できる卓越した能力を有する人材の養成も目指している。これらの多岐に亘る高度に専門的な人材を育成するために、当研究科は次のような人を求めている。 【博士課程】

	薬学研究科は、薬学領域の幅広い知識とそれに基づく深い専門性を修得し、革新的研究を目指す生命科学・創薬科学、環境衛生薬学、医療薬学に携わる創造性豊かな卓越した能力を有する研究者・技術者の養成を目指している。また、広い視野と高い倫理観を持ち教育、行政及び医療現場で活躍できる卓越した能力を有する人材の養成も目指している。これらの多岐に亘る高度に専門的な人材を育成するために、当研究科は次のような人を求めている。 《求める学生像》 【博士前期課程】 一般選抜、推薦・特別推薦 ・学修と研究に強い意欲を持ち、主体的な創造性と協調性に富んだ人 ・研究課題への取り組み方において、問題解決能力の獲得に意欲を持つ人 ・多様な人材の育成の観点から、異なる学問的背景（薬学以外の学部出身者）を有し、新たな薬学研究を志す人 ・国際的な人材の育成の観点から、薬学研究を志す海外からの留学生 【博士後期課程】 一般選抜、社会人特別選抜 ・学修と研究に強い意欲を持ち、主体的な創造性と協調性に富んだ人 ・最先端の研究成果を挙げて学術論文として発表する過程を通じて、問題解決能力に加えて課題設定能力の獲得に意欲を持つ人 ・多様な人材の育成の観点から、異なる学問的背景（薬学以外の学部出身者）を有し、新たな薬学研究を志す人 ・多様な人材の育成の観点から、博士後期課程での薬学研究を志す社会人 ・国際的な人材の育成の観点から、薬学研究を志す海外からの留学生 【博士課程】 一般選抜、社会人特別選抜 ・指導的な薬剤師、教育・研究者として社会に貢献することを志す人 ・多様な人材の育成の観点から、博士課程での薬学研究を志す社会人 ・国際的な人材の育成の観点から、薬学研究を志す海外からの留学生 《修得しておくべき知識等の内容・水準》 【博士前期課程】 一般選抜、推薦・特別推薦 ・研究遂行に必要な大学学部卒業レベルの物質科学・生命科学の基礎学力と語学力を有すること 【博士後期課程】 一般選抜、社会人特別選抜 ・研究遂行に必要な物質科学・生命科学の基礎学力に加え、関連分野の先端的な知識と基礎的実験技術を有すること ・また、基礎的語学力に加え、論文作成や国際学会での発表・討論に必要な語学力を有すること 【博士課程】 一般選抜、社会人特別選抜 ・研究遂行に必要な大学学部卒業レベルの物質科学・生命科学の基礎学力と語学力に加えて、臨床研究にないし関連領域の研究の遂行のための医療薬学の基礎的な知識と技術を有すること
--	---

経済学研究科	
	本学研究科の教育理念・目標にしたがって、次のような意欲と能力に満ちた学生が入学することを期待し歓迎いたします。 ・経済・経営分野におけるより高度な学習や研究に関心を持っている人 ・大学院での成果をもとに高度専門職業人として社会で活躍したい人 ・経済学・経営学に関するより広範で豊かな教養の形成を目指す人 ・国際的分野について十分な理解力を持っている人 ・研究や学習上の諸課題に立ち向かう強い意志と前向きな意欲を持っている人
現行	《求める学生像》 経済学研究科の基本的な理念は、経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた社会人ならびに高度な専門的知識を有する研究者の養成に努め、経済、経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を持つ人材を社会に送り出すことである。 【博士前期課程】 博士前期課程では、上記の基本的理念にもとづき、とくに、経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた人材の育成を目標として、次のような意欲と能力に満ちた学生が入学することを期待し歓迎している。 一般選抜 ・大学院での研究・学修成果をもとに高度専門職業人として現代の経済社会で活躍したい人 ・経済・経営問題の理論的説明や実証的分析に深い興味を持ち、将来、研究者として自立するための基礎を築きたい人 社会人特別選抜 ・社会人としての生活・就業経験の中から明確な問題意識を形成し、経済学・経営学における思考方法や分析手法を学んで、その解決に取り組みようとする意欲のある人 ・経済学・経営学に関するより広範で豊かな教養の形成を目指す人 外国人特別選抜 ・出身国における経済・経営の現状を理解し、大学院における研究・学修を通じて、その発展の方向を考察しようとする意欲のある人 ・国際的視野に立って経済・経営上の諸問題に取り組み、国際的に活躍したいと考えている人 【博士後期課程】 博士後期課程では、経済学研究科の基本的理念にもとづき、研究者の養成をはじめ、経済、経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を備えた人材の育成を目標として、次のような意欲と能力に満ちた学生が入学することを期待し歓迎している。 ・経済・経営分野における高度な学修や研究に深い関心を持ち、研究や学修上の諸課題に立ち向かう強い意志と意欲を持っている人 ・大学院での研究・学修成果をもとに高度な専門性を持って、経済社会の諸問題を的確に分析しその解決を見出す努力をしようとする人 ・国際社会における経済、経営の諸問題について十分な理解力を持ち、国際的に問題解決にあたる意思を持つ人
改正	《修得しておくべき知識等の内容・水準》 経済学研究科では、各課程及び各種選抜方式別に、入学者が次のような知識や能力を修得し

	ておくことが望ましいと考えている。 【博士前期課程】 一般選抜 - 専攻分野における制度や理論、政策についての学部教育レベルの知識・理解を有し、論理的思考能力を養っていること 社会人特別選抜 - 大学院において研究の対象としようとする経済・経営上の問題について、その現状や経緯に関する十分な知識を持ち、これを論理的に説明しうる能力を養っていること 外国人特別選抜 - 専攻分野における基本的文献を理解し、自らの主張を論理的に表現できる知識と日本語能力を修得していること 【博士後期課程】 - 専攻分野における国内外の専門的文献を読み進め、これらを参照しながらも、研究対象とする経済・経営上の課題について、独自の理論的・実証的検討を加えることができる創造力と分析方法に関する知識を養っていること
--	--

人間文化研究科	
人間文化研究科では以下のような学生の入学を期待します。	
・文化、思想、歴史、文学、社会、労働、人権、福祉、教育、心理などの分野諸課題について、明確な問題意識のもとに専門的かつ複合的に研究したいという意欲を持つ者 ・深い専門知識と幅広い学識を生かして、将来、研究者として活躍したい、あるいは地域社会に貢献し、また国際社会で活躍したいという意欲を持つ者 ・文化・社会・人間の諸分野への問題関心、研究意欲を持ち、働きながら学びたいと考える社会人	
《求める学生像》 今日の地球規模の課題および地域社会における諸課題は、技術的、物質的アプローチのみでは決して解決に至らない。価値観の多様性を前提としながら、人間の文化について深く掘り下げた研究が求められており、人間文化研究科の使命はまさにこうした研究を通じて、「豊かで人間らしい生き方」(well-being)を可能にする社会の実現へ向けに貢献していくことにある。本研究科では人文社会諸科学の研究、特に、思想、歴史、文学、メディア、労働、人権、福祉、教育、心理などの分野諸課題について、専門的かつ複眼的に研究することができ、深い専門知識と幅広い教養を生かして、将来、研究者になりたい、あるいは地域社会に貢献したい、また国際社会で活躍したいという意欲を持つ人の入学を期待している。 【博士前期課程】 一般選抜 - 人文社会諸科学における強い問題関心を有している人 - 研究者を目指した学術的修練を積みたい人、専門知識をもつ職業人としての学識を深めたい人 社会人特別選抜 - 社会における活動経験・就業経験等を生かしながら、学問的なレベルでの研究課題を設定	現行
改正	

	し、遂行しうる人 - 研究成果を社会に還元したいと考える人、専門知識をもつ職業人としての学識を深めたい人、研究者を目指した学術的修練を積みたい人 外国人特別選抜 - 出身国と日本との文化的・社会的異同について鋭敏な感性をもち、それらを意識した研究課題に取り組みたいという意欲をもつ人 - 研究者を目指した学術的修練を積みたい人、専門知識をもつ職業人としての学識を深めたい人 【博士後期課程】 - 出身国と日本との文化および社会的な交流の発展に寄与したいと考える人 - 自立的な研究活動を通じて専門分野を深めたい人、博士論文をまとめたい人、研究者あるいは高度な専門的職務に就くことを目指している人 《修得しておくべき知識等の内容・水準》 【博士前期課程】 一般選抜 - 大学院での研究を進めるための基礎的な外国語運用能力を有していること - 大学院での研究を進めるために十分な希望専攻分野の基礎的専門知識と論理的思考能力、文章作成能力を有していること 社会人特別選抜 - 大学院での研究を進めるために十分な希望専攻分野の基礎的専門知識と論理的思考能力、文章作成能力を有していること 外国人特別選抜 - 大学院で研究を進めるための基礎的な日本語能力を有していること - 大学院での研究を進めるために十分な希望専攻分野の基礎的専門知識と論理的思考能力、文章作成能力を有していること 【博士後期課程】 - 高度な専門的な学術研究に従事するにあたり、十分な学術的素養、専門的知識、外国語運用能力を有していること
--	--

芸術工学研究科	
本研究科は、デザイン情報領域と建築都市領域の二領域から構成されており、以下に示すような人材を求めます。 - 高度の専門職業人あるいは博士後期課程へ進学し研究者を目指す。 - 上記専門2領域いずれかの学部卒と同等の専門知識あるいはデザインの技量を有する。 - 博士前期課程の学位論文を執筆できる論理構成能力、あるいは、学位作品を製作できるデザイン能力を有する。 - 高度な専門知識および技法の習得のための国際的な視野に立った情報収集、および、コミュニケーションを可能とする語学力を有する。	現行

	《理念・目的、教育目標》 高度に発達した科学・技術（工学）は、わたしたちに利便性に富んだ社会をもたらした。しかしながら、その反面、いまだ解決をみていない社会的課題も少なくはない。芸術工学では、このような課題に対して、広義のデザインによって、多くの人から共感を得られる根拠に基づく方針を提示し、その解決を図ろうとしている。 芸術工学研究科は、以上のような社会的課題の解決にむけて、「技術」、「感性」および「人間理解」を3本柱に、幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を身につけ、デザインの理論と実践を通じ持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標としている。 ○ 博士前期課程では、芸術工学分野における学術研究の追究とその高度化を目的とし、より豊かな未来を切り開く原動力を持った人材を育成している。 ○ 博士後期課程では、21世紀基幹産業の拡大及び高次化に対応できる、より高度で豊かな専門能力や学識、技術、創造性を有する研究開発能力を持った人材を育成している。 《求める学生像》 【博士前期課程】 ・高度の専門職業人あるいは博士後期課程へ進学し研究者を目指す人 【博士後期課程】 ・芸術工学分野における研究者および産官学分野における高度な専門的職業人の指導者を目指す人 改正 《修得しておくべき知識の内容・水準》 【博士前期課程】 ・情報環境デザイン領域、産業イノベーションデザイン領域、建築都市領域いずれかの学部卒と同等の専門知識あるいはデザインの技量が求められる。 ・博士前期課程の学位論文を執筆できる論理構成能力、あるいは、学位作品を制作できるデザイン能力が求められる。 ・高度な専門知識および技法の習得のための国際的な視野に立った情報収集、および、コミュニケーションを可能とする語学力が求められる。 【博士後期課程】 ・芸術工学専攻の博士前期課程修了と同等の専門知識が求められる。 ・博士後期課程の学位論文を執筆できる研究意欲と推進能力が求められる。 ・国内外を問わず関連する研究分野における十分な情報収集力、コミュニケーション力が求められる。
--	---

看護学研究科	
現行	名古屋市立大学大学院看護学研究科では、次のような意欲と能力に満ちた学生が入学することを期待し、このような人材を歓迎します。 ・看護学および関連領域の学問など基盤となる知識を幅広く修得し、人々の健康をめぐる今日的な課題を主体的に学修する意欲のある人 ・倫理的側面を尊重しながら、研究を遂行し、実践を探索するために必要な学力のある人

	・修得した高度な教育・研究能力や看護実践能力を積極的に人々の健康生活支援に活用する意思のある人
改正	《求める学生像》 【博士前期課程】 ・豊かな人間性、柔軟な姿勢、深い倫理観、ニーズを汲み取る感性を持ちあわせている人 ・高度な看護実践能力をもって人々の健康生活支援に関わることにやりがいと使命を感じている人 ・大学院で修得したことを基盤に、実践の場で問題を適切に解決していくリーダー的存在となる意志のある人 ・身に付けた幅広い知識や分析力をもとに、他職種と連携し、チーム医療を推進する意志のある人 ・看護学の教育者・研究者・高度実践家をめざすために、十分な教育研究力を身につけようとする意欲にあふれる人 ・研究を遂行し、実践を探索するための自律性および向学の志が高い人 【博士後期課程】 ・自らの問題意識を深め、計画性を持って課題を探究していくことのできる人 ・看護実践から得た知見を生かし、論理的な思考に繋げられる人 ・修得した高度な教育研究能力を活用し、看護学・助産学の発展に貢献する意欲があり、看護学・助産学の教育研究職に就くことを強く希冀し、その意志を持ち続けることのできる人 ・世界レベルの研究に目を向け、高い知的関心と粘り強さで、研究をやり遂げる意志のある人 《修得しておくべき知識等の内容・水準》 【博士前期課程】 ・看護学をより深く学ぶために必要な学士課程卒業レベルの専門知識 ・共感的、援助的コミュニケーション能力 ・研究に関する基礎的知識 ・論文作成に必要な基礎的語学力並びに英語読解力 【博士後期課程】 ・希望する看護領域の専門的知識 ・看護学研究の遂行に必要な研究能力 ・英語文献読誹、論文作成並びに発表に必要な語学力 ・自律した研究態度

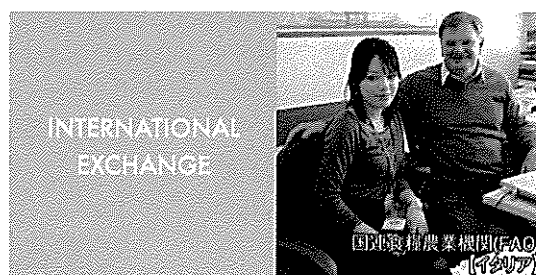
システム自然科学研究科	
現行	理念と目的 生命科学、情報科学の各分野における基礎学力と技術を身に付け、同分野及びその融合領域の発展に貢献できる人材を育成する。

	社会人を含め、従来の学問分野の枠にとらわれない学際的な学問を志す学生を広く受け入れ、地域社会、国際社会で活躍できる人材を育成する。 アドミッション・ポリシー 本研究科では、次のような方の入学を歓迎します。 ・ 生体や生命環境を情報やシステムの観点から理解し、新しい学問体系を構築する意欲のある人 ・ 自然現象・情報・数理に関心があり、それを自然科学的な手法で研究することに興味がある人 ・ 十分な基礎学力と学習意欲を持ち、未知の分野の学習にも積極的に取り組める人 《求める学生像》 大学院での研究分野に直結する基礎知識を入学前に習得しておくことは望ましいが、博士前期課程では、入学後、新たな研究分野で情熱を持って自ら勉強し、挑戦しようという人も歓迎している。また博士前期および後期課程において、働きながら学び、研究したいという意欲のある社会人学生も歓迎している。 【博士前期課程】 一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜において ・ 生命、物質に関する様々な自然現象・理論に関心があり、それを情報やシステムの観点から理解し、自然科学的な手法で探求することに興味がある人 ・ 自然科学の基礎分野における十分な学力を有するとともに、関連する他分野の学習や研究にも積極的に取り組む意欲のある人 【博士後期課程】 一般選抜、社会人特別選抜において ・ 生命、物質に関する様々な自然現象・理論に関心があり、それを情報やシステムの観点から理解し、自然科学的な手法で探求することに興味がある人 ・ 自然科学の基礎分野における十分な学力を有するとともに、関連する他分野の学習や研究にも積極的に取り組む意欲のある人 ・ 自ら問題を発見し解決する意欲と能力を持つ人
改正	《修得しておくべき知識等の内容・水準》 【博士前期課程】 一般選抜、社会人特別選抜、外国人特別選抜において、博士前期課程への入学には、自然科学諸分野の大学教養レベルの知識を共通に修得していることに加え、自然情報系では物理学、化学、数学、情報学のいずれかの分野における専門基礎知識、生命情報系では分子レベルあるいは個体・種レベルにおける生物学の専門基礎知識を身につけていることが求められる。両系ともに必須ではないが、プログラミングについて経験あるいは関心があることが望まれる。 【博士後期課程】 一般選抜、社会人特別選抜において、それぞれの分野で研究を遂行するための十分な基礎知識に加えて、論文作成、国際会議での発表のための語学力も要求される。



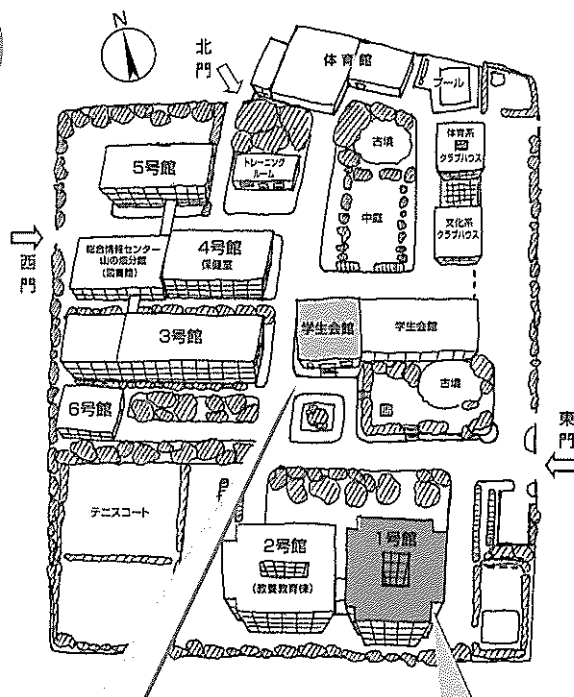
IEC International Exchange Center

Global Network

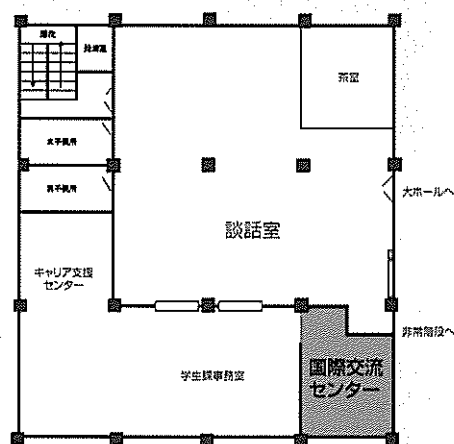


CONTENTS

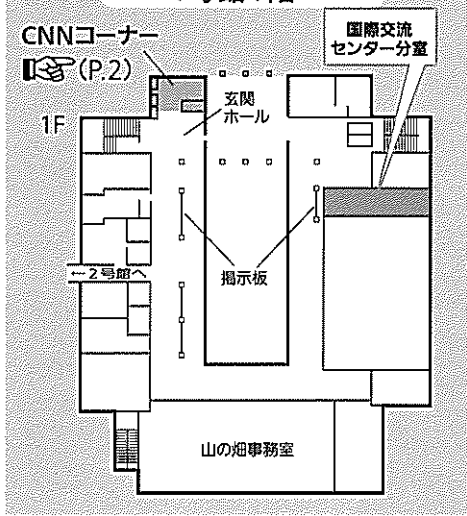
国際交流センターの紹介	2
2014年度 年間スケジュール	3
留学・インターンシッププログラム	4・5
留学体験談	6-8
インターンシップ体験談	9
国際交流協定一覧	10
Talk Time	11
協定校留学生の紹介	12
協定校留学生との交流	13
国際交流 on Campus	14
国際学会発表支援事業	15
アクセス・連絡先	16



学生会館2階



1号館1階



編集後記

国際交流推進センターは「国際交流センター」へ名称変更し、学生会館2階へ移動しました。Talk Timeは引き続き1号館1階（新名称：国際交流センター分室）で行います。今後も国際交流に力を入れていきますので、ぜひ気軽に新センターへ来てください。



発行：公立大学法人 名古屋市立大学 国際交流センター

住所：〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
滝子（山の畑）キャンパス 学生会館2階

開館：月曜日～金曜日 9:00～17:00

（休業期間も原則として開館します。祝日・年末年始を除く）

電話：052(872)5163

E-mail: iec@sec.nagoya-cu.ac.jp

URL: <http://www.nagoya-cu.ac.jp/1006.htm>

【年度計画31】

平成 25 年度 国際学会参加実績

研究科	人数	主な参加学会（国名）
医学研究科	14	・ 11th World Congress of Perinatal Medicine(ロシア) ・ 10th International Gastric Cancer Congress (イタリア) ・ 2nd International Symposium 2014 IgG4-RD & Associated Conditoins (アメリカ)
薬学研究科	12	・ XXIV Congress of International Society on Thrombosis and Haemostasis (オランダ) ・ 27th Conference of the European Colloid and Interface Society (ブルガリア) ・ 6th Joint Meeting of the Societies for Free Radical Research Australasia and Japan (オーストラリア)
芸術工学研究科	7	Asia Digital Art & Design Association 2013 (韓国)
システム自然科学研究科	1	Chromatin Mechanisms and Cell Physiology (ドイツ)
合計	34	